青い春と書いて青春―私たちのＢＬＵＥ　ＳＰＲＩＮＧ―

流星群

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
青い春と書いて青春―私たちのＢＬＵＥ　ＳＰＲＩＮＧ―

【Ｎコード】
Ｎ６５９１Ｙ

【作者名】
流星群

【あらすじ】
星野ヶ原市に有る星野ヶ原第一中学校。
ごくごく普通の公立中学校だ
義務教育最後の砦と呼ばれる３学年
中学校最後の年に主人公はどのように過ごすのか？

プロローグ

「…3年2組か」
クラス分け掲示板の前にはたくさんの人がたかる。
人ごみの間から自分の名前を探す。
星野ヶ原にも春が来ている。

私は前原京子
此処、星野ヶ原中に通う中学3年生。
外見は…よく言う真面目キャラ
お世辞にも可愛いと言えないセーラーのスカートやスカーフも決められた長さ、べつに改造する理由もないから
特徴といえば、目つきの悪さ。
意図的ににらんでいるわけではないが、にらんでいると思われ着いた渾名は＜絶対零度＞

さて、クラス分けも発表され、私は前の学年…つまり2年生フロアに向かった。机の上には皆それぞれの段ボールが置かれ、何人かの机の上には亡くなっている。誰が何組に行ったか知るわけもなく私は4階へ段ボールを持って上がる。
「誰も…いない」
教室には誰も着いていはいなかった。そりゃそうだ、ただいま7時20分大抵のピークは7時50分からだ
出席番号的に窓際になった席に腰掛け、持ってきた小説を開く

プロローグ（後書き）

初めまして、流星群です。
こんな駄作を読みに来ていただきありがとうございます。

さてさて、プロローグはどうでしょうか。
これからクラスメイト達がやってきます。
それでは、第一話で会いましょう！

1話　喧騒

段ボールは足元に置き、小説を読んでいると誰かが来た。
ショートカットの髪をした2人組。スカートの丈もスカーフも校則違反している
絶対にかかわりたくない奴らだ。そいつらは私をみると嫌みたらしく、大声で言う
「うわー前原じゃん。目つき悪いと嫌われるよね～」
（丸聞こえですけど）
「やっぱ、むっつりってキモイよね～」
（むっつりって…むっつりでは無い！）
読書を続けながら、突っ込みを続けていると男子やその他女子がやってくる。
やはり私をみると、こそこそと話私を見ないようにする。
面白くなった私は、彼らをきょろきょろと見回すと全員2歩下がる。
じっとクラスメイトを見て
「何しているの」と聞くと黙って全員席に着いた。

クラスメイト達には避けられるが、いじめられはしない
なぜなら　目つきだけで人を殺せる女　とも呼ばれる位だ。
何をされるのかが分からないからしい。
こそこそと陰口を言うのが、ギャル系の校則違反どもだ

8時15分になり先生がやってくる。
誰が先生なのかという期待の中やって来たのは
理科の市原彩子だ

別名：ハゲ子
髪が少ない遺伝が故に地肌が見えている。つまり、禿げたように見えるのだ。
クラスのブーイングの中出席を取る市原先生。
よく、この喧騒の中出来るよなと感心していると、例外なく名前を呼ばれる
「前原京子さん」
返事するの面倒なので手をあげ、先生をｌｏｏｋする
いる事が確認できたので先生は次の奴を呼ぶ。
喧騒の中四階の窓から見えたのは、星野ヶ原市の街でした

1話　喧騒（後書き）

どうも
第1話どうでしたか？
クラスメイトと初っ端から上手くいかないようすの京子とブーイングを受ける彩子先生
さて、この後3年2組はどうなる事やら？

では、第2話で

2話　記憶と奴

出席を取り終え、手紙類を配り、春休みの宿題を集める。
今度は教科書、国語・数学・社会（公民）・英語・資料集・ワーク・移行教材…机の上には真新しい教科書類が山積みになる。
「乱丁などないか、確認してください」
先生の声が、喧騒の渦に飲み込まれてゆく。教科書をぱらぱらとめくると、真新しいインクの匂いがする。名前ペンで名前を書いてゆく。
作業が終わり、窓の外を眺めていると斜め後ろの席の奴に背中をつつかれる。
「何？」
「前原京子？だっけ」明るい黒髪を少し伸ばした男子が聞く
「ええ、何？渡部成瀬」
「…よく名前を知っているな」
「出席の際に聞いた」
「あっそ」
「何の用？」
少し冷めた目で見ると、成瀬も真面目な顔になり、制服のポケットから写真を出す
「コイツ、知っているか？」
それは、3年前に事故死した大阪陸斗だ
「大阪陸斗」
「やっぱり」
「何を？」
「1年の時7組だろ」
「ええ」
「お前だけか…」意味深な目で天井を仰ぐ成瀬
「コイツを覚えているのが？」彼の手許に再度目線を移す

「ああ、やはり」
「で、だから？」
「因みに、１組から８組の連中全員に聞いたが、覚えている奴は誰もいない」
「それが何か？」
「ホント、お前って冷たいよな！」
突然怒りだした成瀬
「そこ！煩い！！」先生が指を指して怒鳴る
ふと、怒鳴り声で思考がスパークした。
そうだ、大阪陸斗と成瀬は友人だった…でも、何故私だけが大阪陸斗を覚えているのか？
衝撃的な事件のはずだが…
でも、何故か事件の概要が思い出せない。事故死だった　それしか覚えていたない
思いふけっていると、成瀬からメモが来た
＜放課後、少し残れ＞
手許にはメモと先生との２者面談の紙が置いてあった。

2話　記憶と奴（後書き）

ども！

第2話いかがでした？
成瀬と陸斗と京子
3人の接点は？

では、第3話で

3話　アフタースクール

「なぁ…市原は知っているのか？」
成瀬が突然私に聞いてきた。私と成瀬は放課後に残る口実として、掃除を引き受けた。
箒を持って机に座る成瀬を横目で見ながら言う
「多分、概要は知っているはずだわ。校長が言うはずだもの。それに、机に座らない！」
「お前って、ホント真面目だよな」
「…そう」
まじめであり、絶対零度

このキャラが物すごく嫌だ

「さて、2面で聞くかぁ」
「は？」
「2者面談」
「あぁ、そう」
「つめてーな。さて、帰るぞ！」

どうでもいいのだが、何故かコイツとマンションが近いと言う事を初めて知った。

そして、私たちの謎になっている、大阪陸斗の鍵を握ることが発覚する

3話　アフタースクール（後書き）

第3話！

さて、京子と成瀬の関係はいかに（主がバカですｗｗ

大阪陸斗の鍵とは？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6591y/

青い春と書いて青春―私たちのＢＬＵＥ　ＳＰＲＩＮＧ―

2011年11月21日22時41分発行